

2012.11.28

## シスターの来日記念日によせて

11月28日は、北アメリカから、4人のノートルダム教育修道女が、1948年に来日した記念日です。シスター方は、日本の少女達にキリストの福音を伝えるため、3年半後の1952年、最初の学校・・ノートルダム女学院中学校を開校しました。今年2012年、ノートルダム女学院は、創立60周年を祝っております。

この記念日に当たり、世界のかなたで祈りと犠牲を捧げて 日本でのノートルダム校の創立を支えてくださったチェコスロヴァキアのシスター方のお伝えしたいと思います。

その頃、世界は、資本主義諸国、共産主義諸国と東西に分かれて鋭く対立していました。鉄のカーテンで閉ざされた東ヨーロッパ諸国では、共産主義政府によるキリスト教迫害が起こっていました。ノートルダム教育修道女会は、ポーランド、ルーマニア、ユーゴスラヴィア、ハンガリー、東ドイツなどで、19世紀末から、多くの学校を経営し、キリスト教教育に献身していましたが、政府によって学校施設は没収され、シスターたちは、修道院から追放、逮捕といった苦難の時代を迎えていました。チェコスロヴァキアでは、伝統ある優れたND校で働いていたシスターたちは、すべて教職から追放され、政府の監視下にある辺鄙な村に押し込められました。どこからか、極東の日本で、新しいノートルダムの学校が始められるというニュースを耳にした時、シスターたちは、自分たちの将来がどうなるのか全く分からない恐怖と絶望状態の中で、自分たちは学校を失い、ここで死に絶えるとしても、日本で新しいノートルダムが発展し、子供たちに神様のことを伝えていけますようにと、毎日の苦しみと祈りを長年の間 私たち日本のノートルダム 児童・生徒・教職員のために捧げてくださいました。

当時の東西に分裂した世界では通信のすべもなく、日本では、このことを知る由もありませんでした。しかし、神様のみ前に この嘆願の祈りは香のけむりのように絶え間なく捧げられ、京都のノートルダムへの力と祝福となり、女学院は、世界のノートルダムファミリーの一員として発展してきたのです。私は、1989年にこの辺鄙な村、ビラヴォダの貧しい家にチェコスロヴァキア人シスターズを訪問する機会を頂きました。その時、小聖堂に集まって祈り歌う十人余りの老シスターズの大声音の祈りの力強さに圧倒された思い出を持っています。信仰のほとぼしりに満ちた空気でした。このシスターズに祈り、支えられてきたという実感を頂きました。

ノートルダムは修道会を通して国際的つながりを持つ学校です。私たちも世界の様々な国々で育つ子供たち、苦しむ人々に心をはせ、祈りの力を信じて支えあっていきましょう。

最初のND ミッションナリー達、シスターズ ユージニア、メリーポール、ヴィヴィエン、リチャードアンたちも天国から日々私たちのためにとりなして下さっていると信じています。

和田 環